

平成 28 年度第 2 回十日町市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成 29 年 3 月 30 日(木) 午前 11 時～

2. 会 場 十日町市役所 3 階全員協議会室

3. 出席者 市長 関口 芳史
教育長 蔵品 泰治
教育委員 山口 由美子
教育委員 吉楽 隆一
教育委員 庭野 三省
教育委員 佐藤 美佐子

説明のために出席した者

子育て教育部長	渡辺 健一	文化スポーツ部長	富井 敏
教育総務課長	長谷川 芳子	学校教育課長	川崎 正男
生涯学習課長	大島 満	文化財課長	佐野 誠市
スポーツ振興課長	井川 純宏	子育て支援課長	樋口 幸宏
健康づくり推進課長	長谷川 義明	学校教育課長補佐	金崎 隆行
指導管理主事	山岸 一朗	指導主事	宮澤 均

事務局

総務部長	中村 亨	企画政策課長	鈴木 政広
企画政策課係長	齋喜 直	企画政策課主任	曾根 惇史

4. 議 題 (1) 十日町市の不登校について
(2) 十日町市の移住・定住策について
(3) その他

【会議資料】 資料 1 十日町市立学校の不登校の現状と今後の取り組み
資料 2 十日町市における移住定住の取り組み

中村総務部長（開会）

関口市長（あいさつ）

皆さま、おはようございます。年度末の大変お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。今日は、平成 28 年度第 2 回目の総合教育会議ということであり、私も非常に楽しみにしていたところであります。10 月に第 1 回の総合教育会議を開催させていただきましたけれども、その時にはふるさと教育ということで、この地域に伝わります文化・自然・芸術などに関する事、さらに地場産業と申しますか地元の産業に関する事などご議論いただいたわけでありまして。特に大地の芸術祭の各学校の取り組みなどは、次回の芸術祭に向けまして、作品の制作過程の関わりでありますとか、またどのように子どもたちに発信していきたいかなど、いろいろな取り組みの強化につながるものというふうに変化成果が上がったと思っております。今回でありますけれども教育大綱および総合計画において基本方針の一つであります不登校の施策について、十日町市の現状などを改めてこの公開の場で再認識していただいて、今後の取り組みに対して、ご理解を頂戴したいと思っております。ご案内のとおり、十日町市の不登校の状況は厳しい状態であります。全国平均に比べましても高い水準にあると、小中一貫教育ということで、これにあたってきたつもりではありますけれども、成果は逆に厳しい状況にさらに陥っているということでもあります。対策をとることは急務であるというふうに思っております。いろいろな事情があって一人一人のお子さんの家庭の課題があるわけでありましてけれども、ぜひ寄り添っていく中で、一人一人のお子さんが人生のほとんどを過ごす学校生活が楽しくないというのは残念でありますので、解決策を探っていきたいと思っております。そしてもう一つは十日町市の人口減対策を最優先で取り組んでいるわけですが、その中の特に移住・定住策、そして子育て支援策などいろいろな取り組みがございますので、教育の観点から皆さまからのご意見を頂戴したいと思います。小中一貫教育の推進、また特色ある教育活動の推進を進めているわけですが私どもの学校教育のめあてであります「ふるさと十日町を愛し、自立して社会で生きる子どもの育成」に向けてしっかりと対応してまいりたいと思っております。結びになりますけれどもこの会議を通じまして、教育委員の皆さまとは同じ認識のもとに一致協力しながら、教育行政をはじめ、十日町市の抱えるさまざまな問題につきまして話し合いを深めてまいりたいと考えております。そのことを開会にあたって申し上げますごあいさつといたします。今日は短い時間ではありますけれども、よろしく願いいたします。

中村総務部長

ありがとうございます。本会議の運営にあつては、市長が総合教育会議を招集することとされておりますことから、以降の進行につきましては、関口市長からお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

関口市長

それでは私の方でしばらくの間、進行させていただきます。お手元にあります次第に沿いまして進行させていただきます。まずは、議題 1 十日町市の不登校についてであります。事務局から説明をお願いして、その後皆さまのご意見を頂戴したいと思います。

（議題 1 について、資料 1 を川崎学校教育課長が説明を行う。（省略））

関口市長

それでは、教育委員さんからのご意見を頂戴したいと思います。

吉楽委員

本日午前中に、定例教育委員会で不登校に対しての教育委員会を含め、十日町市全体での取り組みが平成 29 年度図られていく構想についての話もいただいたわけですが、現状の中で私が認識しているのは、不登校に限らず家族関係、家庭の干渉というのがある時代から少しずつ大きく変化してきている。非常に複雑な環境の中での子どもさんもいたりされる中で学校といった中での一人の教員の方に不登校やいじめの解決に向かわせるのは、ほとんど困難であることが文科省はじめ周知の全国的な認識となっていると思います。その中で十日町市は非常に新潟県の中で不登校に走る子どもが多いというのは、逆の考え方をすると無理をして学校に行き、心身が疲弊するよりは休もうというような違った意味での健全性だとか自分に対しての考え方も保護者の皆さんも思ったりするのかなということもあるのですが、学校教育という行政の在り方とすると、等しく平等に義務教育を受けられる中で、こういった不登校というのはできるだけ適切に解決していく必要があるわけで、平成 29 年度はカウンセリングやいろいろな形でサポート体制に本腰を入れてきたというふうに私個人的には思っていますので、すぐ単年度では希望する数値にはなるかどうかわかりませんが、2年・3年といった中ではある程度不登校が軽減されていく取り組みではないかと評価しています。

山口委員

不登校の問題というのは、全くの私見なのですが、学校が楽しくないものになっているというのが一番にあると思います。皆さん、小さいころを思い出していただいて、学校は遊びに行っていたのではないのでしょうか。今日は算数だといって喜んで学校に行かれた方というのはいないんじゃないかと思います。学校は友達と遊ぶ場だったはずなんです、それが今は、パソコンなどにより、個人で家の中で遊べるわけです。それがやっぱり底辺にあるんだと思うんです。それでいいかと言ったらそうではなくて、十日町市もこれから一生懸命やってくれるということでも期待していますし、不登校の芽を一つずつ摘んでいっていただけると思っています。もう一つ政治的にやっていただきたいのが、今の小学校・中学校ともに少人数であるということ。そうすると子どもの中の多様性が出てこない。運動が得意、勉強が得意、漫画を描くのが得意という子が大勢の中には必ずいるわけです。同じ年齢の多様性のある子どもと安心、安全でいじめとかななくて、子どもたちの姿が見れるというのはとても大きな体験になると思いますので、そういったことにも動いていただければ、子どもの成育から見てもいいものになるのではないかと思います。

佐藤委員

私も山口委員さんの意見に同意する部分が多くて、自分の息子がまだ中学生でおりますので、その息子が「明日から学校に行きたくない。」なんて言ったらどうしようかなと思うところなんです、自分の昔を思うと土曜日も授業があったんですが、土曜日の3時間目が終わって、友達と話しながら、道草しながら帰ることがとても楽しかったような記憶があるんですが、今は時代の流れや家庭環境も変わっていますので、一概に子どもが悪いとか何が悪いとか言えないのかもしれませんが、楽しい学校というものが子どもたちの頭の中にな

いのかなというのは少しさびしいような気がします。そんな中で、昨日小学校の卒業式で一人のお子さんが中学校での夢を語られたんですが、その子は支援が必要なお子さんで、特別支援学校へ行かなければならないのかなと思われる時期があったのですが、そのお子さんの意向もあって普通に中学校に進まれることになったんですが、小学校時代の支えてくれた先生方、何か校外授業があるとお母さんなども心配で保護者として、付き添って見られる様子を私も拝見していたんですけども、そのお子さんが壇上でおなかから声を力いっぱい出して、「僕は中学校に行ったら吹奏楽部でいい音が出せるように頑張ります。」と本当に心の底から中学校に行くのが楽しみにして、そういった言葉を述べてくれたので本当にうれしく思ったんですが、夢を持って行ける学校であってほしいなど願っております。もう一つ山口委員さんと共感している点ですが、小中一貫というところで三つあった学校が一つに統合というのは、それは少人数で児童数が少ないということで仕方がないことなんですが、いい部分も悪い部分も目立ってしまって、人数が多ければ悪いことをしても3人、4人同じことをする子がいて目立たないけれど、人数が少ないと目立ってしまうとか、あと、自分自身だけが一人追いつめられてしまって、逃げ場がなくなってしまうというのも私も生徒さんを見ていて、どこかで違う子どもたちと一緒になればそこで空気が変わる部分があって、ずっと同じつながりで何年間も過ごすともたあの子、またあの子といったかたちで見られたり、自分自身がそういう気持ちで行動しなければいけないという部分もあるのではないかなと思ひまして、小中一貫とかそういった方向にも疑問を感じる部分もあります。

庭野委員

不登校に対して、私はずいぶん若いころから関わっていて、自分が教師の時は出なかったけど、親戚の高校教師夫妻の子どもが不登校になって、相談に乗ってくれということで、学校を1日休んで対応したんですけど、その子は今ちゃんと結婚して子どももいます。不登校は大変じゃない。ただ、不登校になったときにどういう人間関係であるか、家庭や親が前向きになっていけば、そんなに心配ではないんです。ただ、残念ながら今は育児放棄的なものがあるって、そういう子には家にいるより学校に来た方がいいだろうと必死になって学校の魅力をアピールしてくるよう仕組んだわけです。学校は楽しいところと大前提では言いますが、残念ながら私は今の小中学校はまじめすぎて、勉強とかスポーツとかの特定の評価基準だけで子どもたちを見るので、合わない子は絶対います。部活とか表のそういう部分だけで子どもを評価しようとする絶対的にそれに合わない子どもがいることを、親も学校も認識しなくてはならないと思います。そのうえで基本的には不登校になった時に他の人とふれあっているかどうかだと思います。そこで人間っていいなって感覚をどれだけ体験できるかにかかってくるんじゃないかと思います。そうすれば子どもは前向きになって、自立するので不登校を恐れる必要はないと思います。ただ、今はあまりに数が多い。数が多いということは学校と家庭のどこかでボタンのかけ違いがあるんだと、これは私の経験則から間違いはないと思います。ボタンのかけ違いがどこにあるか探るために私もわかる範囲で協力していきたいと思います。

蔵品教育長

教育行政全体について、市政のアンケートを見ますと、市民の皆さまから高い評価をいただいているのですが、個別にみると不登校の問題は市民の期待に応えられていない

ことであり、本当に頑張らなきゃならないと心に自覚をしているわけでございます。今までどおりではだめだというのは認識しているわけでありまして、先ほど川崎課長の方から説明のありましたけども、新たな取り組みもしながら事業を進めてまいりたいと思っておりますし、また今ほど皆さまから楽しい学校づくりと言いますか子どもたち一人一人の自己有用感、肯定感、一人一人が認められる雰囲気づくりそのものにも課題があるのかなと改めて認識させていただいたところでございます。もう一つお話ししたいことなんですが、今年の3月3日に中里中学校の卒業式に参加させていただきました。卒業生が41人ですけれども、卒業証書授与の後、後援会長さんがお見えになって皆勤賞の子どもたちに賞状を手渡しておりました。皆勤賞というと2、3人くらいかと思っておりましたが、次々と名前が呼ばれて13人、率にすると32パーセントの子どもが皆勤賞ということでとても驚いたんであります。不登校のお子さんとは対極の部分ではあります、市全体ではどのようなものかと調べましたところ、小学校では463人中21人で5パーセントの子が皆勤だったということであります。中学校では505人の卒業生で89人が皆勤で18パーセントということでしたので、そういう部分も伸ばしながら不登校対策を考えられないかなとそういうことを感じております。

庭野委員

私が津南にいたときに、津南は教育委員会が表彰していたんです。不登校と逆のとにかく学校大好きな子を褒めるわけです。でも不登校になっても、学校が嫌いになっても別のところで褒められるシステム、異論反論があるかと思いますが、私は別府倫太郎君に驚きました。あれだけ濃密な学校以外のところで人間関係を作ったというのは評価してあげるべきだと私は思います。いろいろな評価基準をもって子どもたちを見てあげることが大事で、今は子どもの評価基準が固定化してきている。まず、スポーツ。私のように足の遅い子はまず評価されない。音楽が評価されるが、絵画はどれだけ評価されるのか。とにかくいろいろな評価をされる場を持つべきだと思います。

関口市長

ありがとうございました。時間の関係もあるので、この程度にさせていただきますが、先ほど申し上げたとおり、一人の担任の先生もしくは学校など、その場での対応はとても厳しい状況だというのは我々も十分に学んだところであります。今後はいろいろな人がかかわれることが大切との話もあったことから、教育委員会のみならず、市の部も課も含めて総力で取り組む新しい体制づくりをさせていただきますので、一つご理解いただきまして、ぜひ教育委員の皆さまからはいろいろなご発言を頂ければと思います。それでは、これにつきましては、以上とさせていただきます。二つ目の議題であります、十日町市の移住・定住策について資料が用意されておりますので、事務局は説明をお願いします。

(議題2について、資料2を鈴木企画政策課長が説明を行う。(省略))

関口市長

ありがとうございました。時間も限られておりますので、皆さんからご意見を頂きたいと思いますがどうでしょうか。

山口委員

娘夫婦が4月から十日町市にお世話になります。子育てがしやすい、食が魅力ということで横浜から転入してきます。よろしく願いいたします。

吉楽委員

こういう議題になると一市民として、少し自分の意見を述べたいと思います。具体的には県立十日町病院の脇に看護学校が併設されるということで、高校を卒業して、次の専門学校あるいは大学など進学は自由だが、ぜひ地元で学んでいきたいというお子さまがいればそれは非常にうれしいことではないかと思っ、記事が出たのを読ませてもらいました。それで私の方から一点提案ですが、ニーズとして介護職員あるいは看護職員というのは、これからどうしても外国人労働者と言いますかアジア地域の皆さんも貴重な労働力ですので、人材教育の一環として専門学校をこの地に用意するのであれば、アジア地域の皆さんの技術習得の受け入れ先としても考えていただいて、それが地域に出るのプラスに転じていくのであればいいことではないかと思っているところであります。

庭野委員

中学・高校への地域おこし協力隊の出前講座がとても大事だと思っっているんです。これからは、市長が先頭になって、ぜひ高校のキャリア教育へ働きかけたらどうかと思っます。大人は初雪が降るとまた雪が降ったかと愚痴を言うばかりで、それをずっと聞いている子どもたちは、この地に住まなくなってしまう。大人がこの十日町市の魅力を発信していかなければならないのに、大人は愚痴ばかり。教育委員会がふるさと教材を作ったが、こういうものを大人が読んでほしい。また雪が降ったとか何もないとかではなくて、あれだけ雪が降っても道路を開けるのは、十日町の技術、力ですよね。だから、雪が降っても生活ができることを子どもにアピールしなければならない。そうしないと人は減るばかりだと思っます。

佐藤委員

長男が20歳を過ぎていて、今回の資料を見るとお嫁さんは外から連れてこないのだめなのかなとちょっと思っるところです。その息子が先日、つまり市民里山学会でちょうど帰省していたので、話しを聞きに行ったところ、東京から来た人が松代のかなり雪が多いところに定住されていました。「本当にここでいいですか、何でここがいいのですか。」と聞くと、「人が良くて、雪もアウトドアもいいんです。」とのことでした。そういった方から中学・高校生に話をしてもらいたい。今回の資料で十日町が好きな子の割合が高い、いいところがたくさんあると思っている子が多いので、それが具体的に何なのか子どもたちに話してもらいたいと思っます。

山口委員

今ほど吉楽委員さんが看護学校の設立が決定しているとお話をされましたが、今までは看護学校を作っても結局、看護師さんたちは卒業後どこかに行ってしまうということで、看護学校を作る話がなくなっていた経緯があると思っんですけども、看護学校卒業後、2年間十日町で働くという具体的な制限を付けた給付型の奨学金をぜひお願いしたいと思っます。

蔵品教育長

先日、松之山に市外からきて、出産、今は子育て真っ盛りのお母さん2人と話をする機会がありました。「何で松之山なんですか。」と聞いたところ、「自然がいい。人間関係がとても温かく、子育ての支援をしてくれる。隣のおばあちゃんが手伝ってくれる。」といった話がありました。本当にその辺が移住・定住を促進する基盤になるかと思います。ただそれをいかに全国にアピールしていくのかという部分では、大地の芸術祭がとても重要だなと思っておりまして、そういうものをきっかけにこの地の良さを学んでいただければと思っているわけでございます。そういった中で、学校教育の中でも全国に誇れる大地の芸術祭というものに積極的にかかわっていきたいと考えております。

庭野委員

自然がいいとは言うけども、当の十日町市民はあまり感じていない。十日町市民がアウトドアをするための立地条件の良さをどれだけわかっているのか。大地の芸術祭も含め、人がいいということを市民が自覚していない。外から見ると十日町市の人は何ていい人なんだろうと思われていることを誇りに持った方がいいと思います。中越地震の時に自分の組で避難所といいますかテントを張ったら、見舞いに来た人が明るい避難所でびっくりしていました。そういったコミュニティがあるんですね。それをもう少し市民が自覚しないといけないと思うんですね。

関口市長

私どもの意見としては、ステレオタイプの考え方ではあるんですね。そういったものをできるだけいろいろなベクトルで評価して違う見方をするのが本当は成熟した社会といえますか人間もその方向に行くはずなんです。単純な社会からだんだんいろいろな価値観をもった人間が生活するようになってきている。でもその方向は間違っていないんじゃないかと思っています。高齢者を中心に厳しい見方をされる方も多いんですけど、徐々に多様な考え方をする人は増えてきている。その中の一人はリーダーとなって、少しずつ変わってきているかなと感じている。我々としては、いいところですよと言いつけるしかないと思います。自分自身も生活を楽しむ中で、今、いろいろな具体的な提案がございましたので、そういったものに対して、継続的に対応できるものは、しっかり検討させていただきたいと思いますし、それぞれの得たご指摘ばかりだと思ってお聞かせいただきましたので、これは我々が仕事で頑張りたいと思います。ちょうど時間となりましたので、最後にどうしてもという人がおりましたら、ぜひどうぞ。

庭野委員

これからブナの緑がきれいになる時期けども、ブナ林は美人林が一人勝ちで、見るのはあそこだけとなっている。ところが、十日町のブナ林は実に多様性に富んでいる。ベルナティオのブナ林だって、民家の近くにあれだけ広大なものがあるし、西枯木又の笠木には変形のブナ林もあります。ブナ林一つをとってもいろいろあるけども、市民がそれを見知らないだけ。二六公園のブナ林だって素晴らしい。だけど市民は見に行かないんですね。多様なベクトルをもって見てもらいたいと思います。

関口市長

焼野のブナ林も素晴らしいんです。それを今後もどんどん発信していかなければならないと改めて思っているところでもあります。時間も押し迫ってきましたので、今までの2つの議題以外のものでも何かあればどうぞ。ふるさと教材も好評でして、500円で販売していますので、ぜひ買っていただきたい。

庭野委員

ふるさと教材は、情報館で売っていますか。まだ販売していますか。

川崎学校教育課長

学校教育課で販売しております。

庭野委員

情報館でも売ってください。

関口市長

市役所の入り口で売った方がいい。それでは、貴重な意見ありがとうございました。私がお預かりしましたこの件につきましては、以上をもちまして終了させていただきまして、進行を事務局にお返しします。本日はありがとうございました。

中村総務部長

皆さまからは限られた時間ではございますが、貴重な意見等をお聞かせいただき、誠にありがとうございました。それでは、蔵品教育長から閉会のあいさつをお願いします。

蔵品教育長

皆さん、本当に1時間という短い時間ではありましたが、活発なご発言を頂き誠にありがとうございました。本日は、不登校と移住・定住対策という2つのテーマでしたが、不登校対策につきましては、本当に深刻な状況なんだと深く認識している状況でございます。新たな施策を展開しながら新年度取り組んでまいりたいと思います。移住・定住対策については、人口問題は本当に市政の重要策の一つでありまして、学校教育では多くの学校の小規模化を緩和するために移住・定住策にも注目していかなければならないと思っております。教育の魅力を高めることが移住・定住対策の一つの手立てになると私は考えております。実際に平成25年度に十日町小学校とふれあいの丘支援学校による共生教育が始まったわけですが、その共生教育が魅力的ということで、県外からこちらに移住して、そして、子どもさんが転校してくださったという実例がある訳です。これからの教育の魅力づくりをしっかりとやっていかなければならないと思っているところです。また、4月から松之山についても、まつのやま学園ということで、新たな小中一貫校ができますけども、そちらの方も新たな十日町市の教育の魅力づくりの一つとして、しっかりと情報発信をしていきたいと思っているところでもあります。これからの切磋琢磨しながら邁進してまいりたいと思いますので、皆さまからのご指導、ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。私のあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

中村総務部長

ありがとうございました。では、以上をもちまして第2回の総合教育会議を終了させていただきます。誠にありがとうございました。